

2009年3月26日勉強会議事録

見田宗助『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』

発表者：安達・石堂（欠席）

参加者：嶋田・岩瀬・市川・安達・古川・中山・十河晃・久富

記録者：久富

第一章 情報化／消費化社会の展開、自立システムの形成

3 欲望の空虚な形式 または、欲望のデカルト空間

ここでは、“欲望のデカルト空間” について確認。ベストなものが存在しない、座標軸などで表されるような無限の空間のことを言っているのではという意見がでた。

4 資本主義の像の転換 純粋資本主義、としての〈情報化／消費化社会〉

マルクス・・・自由な労働者が資本主義の成立に必要

消費社会・・・自由な欲望が消費社会の成立に必要

見田は、より高度な資本主義社会が消費社会であるという。

アメリカで、ブッシュの時は禁止されていたIPS細胞の使用が解禁された。これも一種の欲望の開放では。社会的規制が外されていく・・・プロテスタントの倫理の否定（⇔宗教の問題？）ユダヤ教のラビの教えでは、13日間ではじめて人間になるという。つまり、それまでは何をしてもいいと宗教の規定である。プロテスタントの倫理すらも資本主義に利用されていると言えるのではないか。。。

第二章 環境の臨界／資源の臨界 現代社会の「臨界問題」 I

3 環境

〈欲望のデカルト空間〉・・・〈消費のための消費〉〈構造のテレオノミー的な転倒〉のイメージについて検討した。〈消費のための消費〉〈構造のテレオノミー的な転倒〉は同じことを言っているのではないかという意見が出た。“転倒”とは、本来の目的から離れて、効率のみが優先されてしまうことである。

第三章 南の貧困／北の貧困 現代社会の「臨界問題」 II

3 「人口問題」の構造

○構造的に“過渡的”とは・・・

携帯電話・インターネットを利用した履修登録・コンビニなどの例が出された。以前は特別だった事がいまや一般的になっていく。

○人口問題に関連して・・・

昨今の、教育費がかかることが子どもを産まない理由となっている現状について話し合っ

た。ここで出た意見としては、「母親が個人の生活水準を下げたくないからでは。」「働く母親に水準を合わせて、24時間対応の保育所設置せよという要求がまかり通っている、政治家も公約に掲げるほど。」「日本の教育費は海外に比べて高い。海外ではできちゃった結婚でも生活に特に問題にはならない。」

また、p101「子どもは生きる喜びの源泉になる」かについて話し合った。メンバーは、「喜びになる」「子どもがほしい」「喧嘩するかもしれないけれど、やっぱりほしい」と一様に同意。反面、メンバーが旅行した中国とギリシアでは子どもを使って観光客の同情を引く光景が見られたという。日本ではあり得ない状況に、国民性の違いがあるのではという意見がでた。

第四章 情報化／消費化社会の転回 自立システムの透徹

1 消費のコンセプトの二つの位相

バタイユの消費（充溢し燃焼しきる消尽）とボードリヤールの消費（商品の購買による消費）について。私たちがボードリヤールの消費の世界に生きているからわからないかも、という意見が出た。バタイユの消費は、はっぱ隊のようなかんじでは？生きることへの喜びを言うが、宗教というわけではないのだろうか。何か大切なものをスルーしてはいないか。。。

結論・・・？

「精神論？意識の転回や政策の方向性にも言及すべきでは」
「鎖国しかない？自給自足的な方向に行くほかはないのでは」・・・

この本に関するメンバーの意見・感想として・・・

- ・「北にいるからこそ言える論理だろう。ソマリアなどであれば、まずその日のメシをどうにかして手に入れることしかない。」
- ・「見田は、公害の問題についてはどう思っているのだろう。消費者が情報を使って判断するのか？I P S細胞や携帯電話など、未だに弊害が出現していないものなどについては・・・」
- ・「情報が発達しすぎても、結局決めるのは自分の主観でしかない」
- ・「色々な見方ができる、楽観的な人だと思った。ボードリヤールの論は恐怖と絶望の印象。消費社会における幸せをどう持っていくかが問題では」
- ・「この本では、人間がどう生きるかを言っていない。これこそ現代社会の問題ではないか。」

以下、話題になったトピックスとして・・・

・精神的なものに価値を見出すことが必要・・・感受性の問題となってくる

日本人は鈴虫の音に風情を感じるが、外国人にとっては雑音にしか聞こえないなど・・・

⇒最終的には文化・宗教と関わってくるのでは・・・

・現代では色々なベクトルがありすぎてどうすればよいのかわからなくなっているのでは・・・社会の基準に沿えばいいのか、しかし基準が強すぎると自由でなくなる。

・価値観が多すぎることの原因として、メディアの影響が一番大きいのでは。

⇒しかしメディア自体も方向性を探りかねている。

⇒主流がない・・・伝統がなくなった・・・？

・リップマン『世論』より・・・新聞は公式見解と目新しいものを載せる。目新しいものとはつまり今までなかったものであり、新商品として開発されたそれらは、すべてが事実とうわけではない。

・芸術に関して・・・これが芸術なのかと思わせて芸術を感じさせる。はじめは良いだろうが、みんながそれを模倣しだすとそのものの価値がなくなってしまう。

・一度便利を知ってしまうともう戻れない。江戸時代には戻れない。現実に折り合いをつけていくしかないのだろうか。

・社会のためにやりたい、こうなりたいという人がいない。

物事の本筋を考えることなく、手軽にできると思い込んでいる。

・大衆性が問題。何の資格もない人間が発言する状況（インターネットなど）

・批判に耐えうる責任がないのでは。自分の信念や世界観を持っている人間が少ない